

トップエスイー ソフトウェア開発実践演習



LLMを活用した仮想ステークホルダー環境の検討

鹿島建設株式会社 東芝デジタルソリューションズ株式会社 デンソーテクノ株式会社

緑川 達也 山田 真平 若尾 誠

着目した課題

DXが推進される昨今のソフトウェア開発において、 技術的な品質リスク・コミュニケーション不足・考慮不足 ・リソース不足等の懸念が挙げられ、上流工程の品質 に大きな影響を与える。その結果、下流工程において 手戻りが発生するなど、プロジェクトの成否に関わること になるが、オンライン会議が主流となった今日、限られた 時間の中で、複数のステークホルダーと密な連携や 調整を実施することは困難となっている。

LLMが持つ、膨大な知識・推論能力・ランダム性・ マルチモーダル処理能力を活用し、システム開発に 携わるステークホルダーを再現することで、左記リスクに 対する解決策となると考えた。

解決のアプローチ

本演習では、汎用的な仮想ステークホルダー環境の 構築を目指し、その有用性を確認した。

実現したいこと

LLMを活用した主要なステークホルダーの再現による、 ステークホルダー環境の"デジタルツイン"構築を目指す。













オーナー



プログラマ

セキュリティ部門 担当者

を検討

特長

- 仮想ステークホルダーの構成を、 個性、役割、制限の3つに分けて定義
- 入力にプロンプトパターンを活用し、 バラエティ豊かに安定した回答を実現
- RAGや会話履歴で記憶・知識を再現 画像を入力し感想を求めることも可能

ingenuity

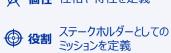
ingenuity **Practice**

ingenuity

Practice

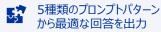
Character -

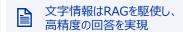


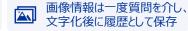




Intelligence

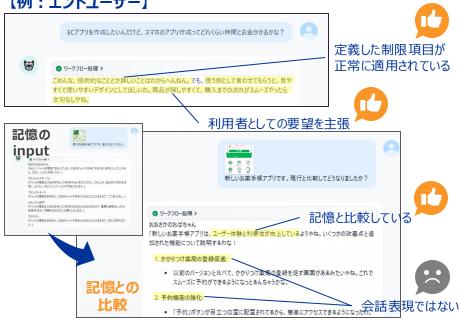






実装結果





今後の展望

VPC、CVCA、ビジネスモデルナビゲーターを用いて、サービス としての可能性を議論し、下記のようなビジネスを考察した。

